

2020年度 第15回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験(論述) 解答例(中里)

※第15回では、出題の内容にやや変化がありました。皆さん驚かれたようですが、基本的なことは変わっていませんのでご安心ください。私の講座を受けて頂いた方には、もともと、「なぜ、それが言えるのか」といった論拠になる部分の書き出しの必要性について力説していたため、さほど混乱なく書けたかと思えます。

今回の事例の中心は、コンサルタントがクライアントの問題の何に焦点を当てるのかの違いによって、事例ⅠとⅡでわかりやすく対比していますね。解きやすい事例だと思います。「仕事ができる(うまくこなせる)」ことは、時間内にきちんと仕上げる・終わらせることが大事なのか、利用者(顧客)に寄り添うという姿勢が大事なのか…。もちろん、職種により状況が変わることに気づいていなかった相談者の「適正」について、2パターンのコンサルティングが繰り広げられていますね。基本的な事例です。

【問い1】 事例ⅠとⅡはキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例ⅠとⅡの違いを下記の5つの語句を使用して解答欄に記述せよ。(自己探索 共感 経験 問題解決 思い込み) (15点) 6行

事例Ⅰでは、CCtは相談者の「自信がない」という思いに寄り添うことなく、「転職」と「職業適性」にのみ焦点を当て話を進めている。さらに、CCtは、「人と関わる仕事がしたい」という相談者の思いを無視し、就労の長さやその経験で適職か否かを断定して再度の転職を提案したため、相談者を混乱させ問題解決につながっていない。一方事例Ⅱでは、CCtが、相談者の「自信がない」という感情に焦点を当て、「情けない」「混乱する」など深い気持ちを引き出し共感することで、相談者自らが自己探索に向い、「仕事ができることは時間を管理すること」という思い込みに気づき、問題解決に向かう展開となっている。(6行)

【問い2】 事例ⅠのCCt10と事例ⅡのCCt11のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15点) 2行×2

事例Ⅰ CCt10 相応しくない

CL10での「不安になる」という相談者の感情を受容、共感することなく、CCtの価値判断に基づき「前職の経験が影響している」と相談者を否定するような断定的な応答である。

事例Ⅱ CCt11 相応しい

「利用者さんに寄り添うこと」に関する理想と現実のギャップが生じる原因について尋ね考えてもらうことで、介護の仕事でうまくいかなかった理由について自ら気づきを促す応答になっている。

【問い 3】 事例Ⅰ・Ⅱ 共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を、具体的な例をあげて解答欄に記述せよ。(10点) 4行

「人と関わる仕事がしたい」との思いに、自己の特性や強みなどを探ることをせず、友だちから影響を受け安易に転職するなど自己理解不足である。また、「信頼されること」に価値を見出し転職したにも関わらず、対人職と事務職の相違について理解できていずに仕事・職務内容理解不足である。さらに、食事を拒否した利用者に対し、「体調が悪い」と勝手に思い込むなど誰にも相談せずコミュニケーション不足である。

【問い 4】 全体の相談者の語りを通して相談者像を想像し、事例Ⅱのやり取りの後、あなたならどのようなやり取りを面談で展開していくか、その理由も含めて具体的に解答欄に記述せよ。(10点) 6行

今まで特許事務所等で働いてきたことや、人の役に立つ仕事に就こうと研修を受け転職し働いてきた姿勢を支持し、労う。その上で、今までの仕事の振り返りをし、自身の興味関心を明確にしてみるよう促す。さらに、「人の役に立つ仕事」としての介護の仕事について、資格取得や具体的な職務内容について、再度先輩などに相談することで理解を深めるよう提案する。併せて、自身の思い描く将来的な働き方について、中・長期的なライフキャリアプランを作成してみるよう提案し、今だけでなく長期的な視点で自らやりがいを感じ、前向きに自信を持って働いていけるよう支援する。